

文教厚生委員会
活動報告
(要旨)

調査テーマ

「保育園等の民営化」

半田市の公立保育園は、13の保育園と3つの認定こども園がありますが、その多くの施設が老朽化しており、建替えや大規模改修のためには大きな財政負担が伴います。加えて幼児教育の無償化を始め、女性の社会進出や就労形態の変化に伴い保育を必要とする子どもの増加、保育ニーズの多様化などの課題も抱えており、それを限られた資源と取得可能な手法を以て改革・変革し、解決していく必要があります。

どもたちが健やかに育まれ、保護者が安心して子どもを預けることができる保育環境について調査研究し議論を重ねたところ、半田市が抱える課題の解決には民営化が有効な施策であるとして、以下の通り提言します。

民営化前について

一、民営化する保育園の早期公表を行い、事業者の決定後は保護者・事業者・市の三者の協議を行う会議体を設置して、円満な引継ぎ並びに信頼関係を築くこと。

一、一定の期間は公立の保育士と新たな民営の保育士による引継ぎ保育を実施するなど、円滑な移行を図り、子どもたちへの影響を最小限にすること。

一、保護者や園長・保育士など現場の声も聴き、事業者の選定の参考にすること。

一、保護者向けに、民営化への詳細なQ&A集を作成し、時間と手間を惜しまず丁寧に説明し理解を得ること。

一、これまで市が築いてきた保育・教育の質の維持と確保、また公民の連携を図る役割を持つために公立保育園は必要であり、すべて民営化するのではなく、地域性を考えて一定数は残すこと。

民営化後について

一、市は定期的、且つ継続的に指導を行い、保育・教育の質を確保すること。

一、監査の実施など財務状況を把握しておくこと。しかし、万一、民間事業者が運営できなくなった場合の対応についても考えておくこと。

一、民営の特色を活かした保育サービスの充実を図ること。

一、正規雇用の保育士に配慮すること。また臨時雇用の保育士は、新たに民営化した保育園に雇用を働きかけること。

以上のことに取組み、保育園等の民営化を推進してください。

新半田病院への交通アクセス
調査特別委員会
活動報告
(要旨)

調査テーマ

「新半田病院への交通アクセス」

新しい半田病院は、現在の半田運動公園東に、6年後の2025年に開院予定とされています。建設予定地が半田市の中心部でもある現半田病院から約6km西に移動したことにより、様々な地域からの交通アクセスの確保が危ぶまれています。命の観点から考えると、心臓停止から3分、呼吸停止から10分、多量出血から30分で死亡率が50%に達するとされています。重度の外傷の場合、ゴールデンアワーと呼ばれる1時間以内に、手術などの根治的治療を開始することが重要です。そのため、受傷から30分以内で搬送することが求められています。しかし、半田市北部地域から新半田病院ま

での救急搬送時間は、42・1分と想定され、非常に危険なラインであることが分かります。当特別委員会の取組みは命に関わる問題です。そこで、合計6点を提言します。

1点目、都市計画決定されている環状線のうち、一ノ草町西の横松交差点付近から野崎交差点までの区間について、早期に完成させるようはたらきかけること。

2点目、予算的な事情や時間の都合により、片側二車線高架の環状線の早期完成が困難な場合は、片側一車線高架の環状線だけでも完成させるようはたらきかけること。

3点目、片側一車線高架の環状線の早期完成も困難な場合は、横松交差点西から野崎交差点の間において、阿久比川への新たな暫定橋梁の設置や既存の橋梁の改良、名鉄河和線アンダーパスの改良等により、救急車両が搬送路として通行できる

道路を確保すること。

4点目、救急車両については、名鉄及び阿久比町との協議の結果を踏まえ、必要な場合は現状の規格2.9mを構造変更し、名鉄河和線のアンダーパスの高さ制限(現状2.3m)をクリアすること。

5点目、半田市内各所の交差点右折レーンの整備など、半田運動公園東の新病院まで、円滑にアクセスできるような道路整備を着実にを行うこと。

6点目、長期的な視点で、名鉄河和線の半田口駅付近から、成岩駅付近までの鉄道高架化を行うこと。

6年後の新半田病院開院までに、半田市民のための「命の道」を整備することは行政の責務であります。

これらの提言を踏まえ、半田市北部地域のみならず、全ての半田市民の命を守る道路を確実に実現させなければなりません。